

潮 流

苫小牧信用金庫の地域貢献活動

常務取締役 鈴木 利徳

今年の 8 月、素晴らしい地域貢献活動を行っている信用金庫に出会った。北海道の苫小牧信用金庫である。苫小牧市は人口約 17 万人、道内 5 番目の中核都市であり、道内一の工業港を有している。明治末期から盛んであった製紙業に加えて、昭和の高度経済成長期には大規模工業基地として開発され石油コンビナート、自動車関連企業も数多く進出している地域である。

筆者が驚いたのは地域貢献活動のその多彩さである。地域の若手経営者を育成するための「とましん創生塾」を開講・運営し、これまで延べ 161 名の塾生が卒業している。平成 21 年からは札幌信金、旭川信金と連携し 3 金庫合同で若手経営者のためのセミナー、企業視察、異業種交流会の開催を行うなど活動の裾野を拡げている。

地元の大学等との産学連携にも積極的であり、平成 17 年には苫小牧駒澤大学、苫小牧工業高等専門学校と、18 年には室蘭工業大学と産学連携の協定を締結し、公開講座や子供ものづくり教室などを共催している。

また、経産省の委託事業である地域力連携拠点事業のパートナー機関として参画し、農商工連携や創業、事業承継などを支援している。その他、苫小牧信金のホームページを活用して地域企業が自社 PR や販売促進の情報発信を行う「ビジネス交流ネットワーク」にも取り組んでいる。

さらに、昭和 63 年からは管内の景気動向を取りまとめた唯一の経済調査誌「とましん景況レポート」を発行し、取引先企業への情報提供に努めているとともに、平成 21 年には苫小牧信金創立 60 周年を記念して、地域経済の活性化を図るために「苫小牧市の活性化への提言―市内の産業構造変革への挑戦―」を取りまとめ、市、商工会議所等関連機関に幅広く公表した。

金融教育への取り組みも活発であり、町内会・老人会向けの金融教室、振り込み詐欺等金融犯罪防止セミナー、小中学校向け金融教室の開催などに加えて、冬休みには親子金融探検隊を開講し、本店内の見学、札勘体験などを通じて信金の仕事に親しんでもらう企画も取り入れている。

地域社会の高齢化に対しては、全役職員が厚生労働省の「認知症サポーター養成講座」を受講し、認知症の方への接し方などを学ぶとともに、各営業店窓口には高齢者や障害のある方々の取引手続きを円滑にするための「コミュニケーションボード」を設置し、高齢者等に配慮した接客を工夫している。また、融資面では介護支援ローン「いたわり」、シルバーライフローンなどの商品を開発している。

環境問題にも前向きに取り組んでおり、①金庫施設内の省エネルギー化宣言、②地球温暖化対策推進国民運動への参加、③全国植樹祭や森づくりフォーラムへの協賛・参加、④分収育林契約による森林資源の保護育成、⑤役職員とその家族のボランティアによる海岸の清掃など、役職員の家族も参画する形で環境活動を推進している。

その他にも、教育・文化振興のために著名人を講師とする経済文化講演会を年 3～5 回、顧客への感謝を込めて一流の歌手を招いての盛大なコンサートを年 1 回開催している。

地域の金融機関としての強い自覚がこのような多彩な地域貢献活動を支えているといえよう。「地域貢献活動を『地域社会の一員としての本業』としてとらえている。地域が限定されているからこそ我々信金は生き残れる」と語った窪田会長の言葉が忘れられない。